

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	運動生理学		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	講義を通して人体の運動に伴う生理的な反応を理解することを学ぶ。		
学習目標	運動生理学は、解剖と生理学を基礎として、人が身体を動かしたとき、体の中でどのような変化が生じるのかを基礎研究並びに臨床研究から得られた結果について学習して、リハビリテーションプログラム立案時に応用できるようになることを目標とする。		
授業計画	- 骨格筋の構造と機能 種類 - 筋収縮の運動生理学 - 運動による骨格筋変化① - 運動による骨格筋変化② 筋の肥大と損傷 - 筋力トレーニング処方の実際① 筋力増強の基礎 - 筋力トレーニング処方の実際② 超回復、オーバートレーニングについて - 栄養素の種類と役割 エネルギー供給 - 身体組成、肥満と運動 - 呼吸器系と運動① - 呼吸器系と運動② - 循環器系と運動① - 循環器系と運動② - 呼吸・循環器系の運動処方の実際 - ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデータ - ホルモンと運動		
教科書	クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説2025共通問題【編】医療情報科学研究所(メディックメディア)		
参考書	『入門運動生理学 第4版』【編著】勝田茂【著】和田正信 松永智(杏林書院) 『運動生理学20講』【編著】勝田茂 (朝倉書店) 『1から学ぶスポーツ生理学』【著】中里浩一、岡本孝信、須永美歌子(NAP LIMITED) 『リハビリテーション運動生理学』【著】玉木彰(メジカルビュー社) 『カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版』【著】坂井建雄、河原 克雅 (日本医事新報社) 『健康スポーツ生理学』【著】東照正、高島規郎 【絵】楠本友美(医療科学センター 卓球王国)		
評価方法	期末試験、出席状況によって総合的に評価する。		
備考	予習と復習をしっかりとる。予習は各章に必要な解剖学、生理学を見直すこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	一般臨床医学		
担当教員	宇野 文夫(薬理学) 村上 達則(栄養学) (病理学)		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	薬理学、栄養学、病理学の知識を深める		
学習目標	検査データ(検査値)をさまざまな病気と関連付けて評価できること。		
授業計画	1. 概論 2. } 3. } 各論 4. } 5. } ・鎮痛薬・抗炎症薬 ・関節リウマチの治療薬 ・血栓症の治療薬 ・パーキンソン病治療薬 ・骨粗鬆症の治療薬 ・高血圧の治療薬 ・糖尿病の治療薬 ・感染症の薬(抗菌薬・抗ウイルス薬・ワクチン) 6. まとめと試験 7. リハビリ栄養とは 8. 臨床現場におけるリハビリ栄養 9. リハビリ栄養の今後の展望 10. まとめと試験 11. 検査値の使い方 血液データ 12. 消化器系・タンパク・酵素系のデータ 13. 糖質・脂質・ミネラル・血液ガスのデータ 14. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデータ 15. まとめと試験		
教科書	『看護に役立つ検査事典』【著】野中廣志 (照林社)		
参考書	『見ておぼえる心電図のえほん』【監】遠藤明太 (照林社) 『イチから分かる臨床検査値活用術』【監】美津島 隆 他 (MEDICAL VIEW) 『まるごと図解 呼吸の見かた』【著】長尾大志 (照林社)		
評価方法	期末試験		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	整形外科科学		
担当教員	藤井 玲奈		
学年	2年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	下肢を中心とした整形外科疾患について学ぶ		
学習目標	臨床で多くみられる疾患を中心に、整形外科疾患の発生機序・診断・治療の基礎的な知識を理解する。また、運動器の理学療法の基盤となるようにそれぞれの疾患の知識を定着させる。		
授業計画	16. 股関節疾患① 17. 股関節疾患② 18. 股関節疾患③ 19. 膝関節疾患① 20. 膝関節疾患② 21. 膝関節疾患③ 22. 足関節疾患① 23. 足関節疾患② 24. 頸椎疾患① 25. 頸椎疾患② 26. 胸腰椎疾患① 27. 胸腰椎疾患② 28. 関節リウマチ 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. 骨腫瘍・軟部腫瘍・骨端症		
教科書	『標準整形外科科学』【編】井樋栄二（医学書院）		
参考書	『整形外科学テキスト』【著】高橋邦泰、芳賀信彦（南光堂） 『整形外科手術後療法ハンドブック』【著】片田重彦（南光堂） 『STEP整形外科(STEP Series)』【監】高橋正明（海馬書店）		
評価方法	期末試験×0.9＋出席点10点(出席に応じて0～10点)、出席態度		
備考	範囲が広いため、予習・復習を行ってください。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	神経内科学		
担当教員	三吉 舞子		
学年	2年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	神経疾患の原因・病態生理について学ぶ。 また、国家試験で頻出される問題について学習する。		
学習目標	臨床で遭遇する神経疾患の原因・病態生理・神経症候・検査について学ぶ。		
授業計画	16. 筋疾患 17. 筋疾患 18. 筋疾患 19. 神経筋接合部疾患 20. 神経筋接合部疾患 21. 認知症 22. 認知症 23. 脳腫瘍 24. 脳腫瘍 25. 脳腫瘍 26. 神経難病国家試験 27. 神経難病国家試験 28. 神経難病国家試験 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. まとめ		
教科書	『標準神経病学』【編】栗原照幸 他（医学書院）		
参考書	『理学療法テキスト神経障害理学療法学II(15レクチャーシリーズ)』【編】石川朗（中山書店） 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【著】丸山仁司（医歯薬出版）		
評価方法	後期試験		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	臨床内科学		
担当教員	辰己 大二		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	臨床の場で視る事のある内科疾患の原因・病態生理・症候・検査について学ぶ。		
学習目標	①障害の原因となる、または罹患していることによりリハビリテーションを行う上で管理しなければならないリスクとなり得る内科疾患を学び、今後の実習、臨床に活かしていく。 ②内科疾患関連の国家試験が解けるようになる。		
授業計画	1. オリエンテーション 内科学とは PTが内科学を学ぶ意義 診断学総論① 2. 診断学総論② 3. 診断学総論③ 4. 治療学① 5. 治療学② 6. 治療学③ 7. 循環器疾患① 8. 循環器疾患② 9. 呼吸器疾患・感染症・消化器疾患① 10. 消化器疾患② 11. 肝・胆・膵疾患 アレルギー・リウマチ・膠原病 12. 腎・泌尿器疾患・内分泌疾患 13. 代謝疾患 14. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 15. 脳神経疾患②婦人科疾患・中毒・熱中症など 16. 特別講義として 救急救命講習(施行済)		
教科書	『Crosslink basicリハビリテーションテキスト 内科学』【編】角田亘・岡崎史子（メジカルビュー）		
参考書	『シンプル内科学(改定第2版)』【総編集】寺野 彰(南江堂) 『病態からみた理学療法 内科編』【編集】高橋仁美(中山書店) 『PTOT基礎から学ぶ内科学ノート』【編】中島雅美 他（医歯薬出版）		
評価方法	期末試験×0.9＋出席点10点(出席に応じて0～10点)		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	基礎理学療法学Ⅱ		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	理学療法の治療技術の理論を中心に講義し、実践を通して学ぶ。		
学習目標	理学療法の治療技術である運動療法を学ぶに当たり、評価及び治療の基礎的知識を身につける。		
授業計画	16. 疼痛に対する運動療法 17. 腰痛に対する運動療法 18. 協調性障害に対する運動療法 19. 基本動作の獲得① 20. 基本動作の獲得② 21. 基本動作の獲得③ 22. 基本動作の獲得④ 23. 基本動作の獲得⑤ 24. 歩行の獲得① 25. 歩行の獲得② 26. 歩行の獲得③ 27. 歩行の獲得④ 28. 歩行の獲得⑤ 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. 術前に対する運動療法		
教科書	『運動療法 障害別アプローチの理論と実際』【著】市橋則明（文光堂）		
参考書	『運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢』【監】青木隆明（メジカルビュー社） 『運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢・体幹』【監】青木隆明（メジカルビュー社） 『運動器療法学』【編】柳原健（金原出版）		
評価方法	筆記試験・出席状況		
備考	学習したことは復習し、自分なりに整理しましょう。 各運動療法の講義で国家試験の過去問を取り入れていきます。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員	馬淵 統大		
学年	2年	学科	理学
単位数	10単位	時間数	300(30)時間
授業の概要	国家試験に出題される評価学の知識について学ぶ。		
学習目標	理学療法評価についての臨床的理解を行い、評価実技を基に国家試験の出題問題に対応できる学力をつける。		
授業計画	16. 国家試験対策①(症例報告会) 17. 国家試験対策②(症例報告会) 18. 国家試験対策③ 19. 国家試験対策④ 20. 国家試験対策⑤ 21. 国家試験対策⑥ 22. 国家試験対策⑦ 23. 国家試験対策⑧ 24. 国家試験対策⑨ 25. 国家試験対策⑩ 26. 国家試験対策⑪ 27. 国家試験対策⑫ 28. 国家試験対策⑬ 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. まとめ		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】内山 靖（文光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	筆記・実技試験		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員	三吉 舞子		
学年	2年	学科	理学
単位数	10単位	時間数	300(60)時間
授業の概要	病態・動作から必要な評価項目を抽出し、症状やリスクに配慮した測定を実施する。 また、臨床推論について学ぶ。		
学習目標	症例に対して基本的な病態や動作から考えられる評価項目を実施し、実習に必要な臨床思考過程を学ぶ。		
授業計画	16. オリエンテーション 17. 臨床実習について 18. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程① 19. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程② 20. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程③ 21. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程④ 22. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑤ 23. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑥ 24. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑦ 25. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑧ 26. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑨ 27. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑩ 28. 症例1 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑪ 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. 症例① まとめ 31. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程① 32. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程② 33. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程③ 34. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程④ 35. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑤ 36. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑥ 37. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑦ 38. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑧ 39. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑨ 40. 症例2 理学療法評価の実践・臨床思考過程⑩ 41. 症例2 まとめ 42. 実技演習 43. 実技演習 44. 実技演習 45. 実技演習		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲（分光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）		
参考書	適宜紹介		
評価方法	実技・筆記試験		
備考	授業の際は実習着着用。実習に臨む身なり(アクセサリ等装着不可)で参加すること。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	理学
単位数	10単位	時間数	300(60)時間
授業の概要	前期で学んだ評価方法の理論、実践から発展し、各疾患に合った評価項目の抽出、評価方法を選択できるように臨床思考過程を学ぶ。		
学習目標	理学療法評価についての臨床的理解を深める。 1年次に履修した人体の構造と機能をもとに評価法を理解し、評価技術を習得する。		
授業計画	31. 運動器系疾患に対する評価 32. 運動器系疾患に対する評価 33. 運動器系疾患に対する評価 34. 脳血管系疾患に対する評価 35. 脳血管系疾患に対する評価 36. 脳血管系疾患に対する評価 37. 臨床思考過程①運動器 38. 臨床思考過程②運動器 39. 臨床思考過程③運動器 40. 臨床思考過程④運動器 41. 臨床思考過程⑤運動器 42. 臨床思考過程⑥運動器 43. 臨床思考過程⑦運動器 44. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデータ 45. 臨床思考過程①中枢神経 46. 臨床思考過程①中枢神経 47. 臨床思考過程②中枢神経 48. 臨床思考過程③中枢神経 49. 臨床思考過程④中枢神経 50. 臨床思考過程⑤中枢神経 51. 臨床思考過程⑥中枢神経 52. 臨床思考過程⑦中枢神経 53. 臨床思考過程⑧中枢神経 54. 疾患別評価の実践① 55. 疾患別評価の実践② 56. 疾患別評価の実践③ 57. 疾患別評価の実践④ 58. 疾患別評価の実践⑤ 59. 疾患別評価の実践⑥ 60. 疾患別評価の実践⑦		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲（分光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	実技試験、筆記試験		
備考	この科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	脳血管障害理学療法		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	頭部外傷の病態理解、脳血管障害の病態、治療の概念を学ぶ		
学習目標	脳血管障害のリハビリテーションについて、評価・治療を中心に講義を進めていく。 目標:脳血管障害の評価・治療を理解する。		
授業計画	16. 脳損傷の病態と治療概念① 17. 脳損傷の病態と治療概念② 18. 姿勢・筋緊張 19. 片麻痺患者に伴う肩の問題 20. 関節可動域運動 21. ポジショニング 22. 成人片麻痺の観察評価と運動療法(臥位・寝返り) 23. 成人片麻痺の観察評価と運動療法(起き上がり・座位) 24. 成人片麻痺の観察評価と運動療法(立位) 25. 成人片麻痺の観察評価と運動療法(立ち上がり) 26. 成人片麻痺の観察評価と運動療法(歩行①) 27. 成人片麻痺の補装具 28. 成人片麻痺の観察評価と運動療法(歩行②) 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. まとめ、国家試験対策		
教科書	『リハ実践テクニック 脳卒中』【監】岩田学 【編】高見彰淑 (MEDICAL VIEW) 『脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか?』【編】潮見泰蔵 (文光堂)		
参考書	『脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル』【編】長澤弘 (文光堂) 『病気がみえる(vol.7)脳・神経』【著】医療情報科学研究所 (メディックメディア) 『ステップス・トゥ・フォロー』【著】Patricia M. Davies (シュプリンガーフェアラーク東京) 『脳卒中最前線—急性期の診断からリハビリテーションまで』【編】福井園彦 (医歯薬出版) 『脳卒中理学療法の理論と技術』【編】原寛美・吉尾雅春 (メジカルビュー社) 『実践MOOK 理学療法プラクティス これだけは知っておきたい脳卒中の障害・病態とその理学療法アプローチ』【編】嶋田智明 他 (文光堂)		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考	この科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	運動器障害理学療法		
担当教員	辰己 大二		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	臨床遭遇率の高い疾患の理解力や触診、評価、リハビリ内容について学ぶ。		
学習目標	運動器障害理学療法における臨床遭遇率の高い疾患、国家試験出題頻度の高い疾患と共に運動器基礎を学ぶ事で臨床応用力を培う事を目標とする。		
授業計画	16. 変形性股関節症・膝関節症① 17. 変形性股関節症・膝関節症② 18. 人工股関節・膝関節症 19. 頸部疾患 20. 腰部疾患 21. 脊椎手術 22. 肩関節疾患 23. 肩関節疾患① 24. 肩関節疾患② 25. 肩関節疾患③ 26. 膝関節疾患① 27. 膝関節疾患② 28. 足関節疾患① 29. ホルモン・尿・腫瘍マーカーのデーター 30. リウマチ		
教科書	『Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学』【編集】加藤浩（メジカルビュー）		
参考書	適宜		
評価方法	期末試験×0.9＋出席点10点（出席に応じて0～10点）		
備考	解剖学・運動学・整形外科学・評価学等の理解が必要となり、運動器障害理学療法の実技を行う授業になります。その為、自己復習をする事で授業に臨んで下さい。この科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	発達障害理学療法		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	2年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	12ヶ月までの正常運動発達、脳性麻痺について学ぶ		
学習目標	胎児期あるいは出産時の問題から障がいを受けた子供達に対して、適切な評価及び治療が行えるための基礎知識を学ぶ。 ① 正常発達の理解：月齢に従って運動および精神発達を経時的に理解する。 ② 国家試験によく出題される遠城寺式と日本版デューク式発達スクリーニングテストを使用して、発達評価ができるようになる。 ③ 正常運動発達を運動学および原始反射・正常姿勢反射反応について学習し、正常発達と異常発達の理解を深める。胎児期あるいは出産時の問題によって障がいを受けた子どもに対して、適切な評価及び治療を行うための発達障害について学ぶ。		
授業計画	31. オリエンテーション 32. 運動発達理論 小児理学療法学テキスト 33. 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 および日本版デューク式発達スクリーニングテストによる正常発達の理解 34. 正常運動発達 運動発達 35. 正常運動発達 姿勢反射 36. 新生児 37. 1～3ヵ月 38. 1～3ヵ月 39. 4～6ヵ月 40. 4～6ヵ月 41. 7～9ヵ月 42. 7～9ヵ月 43. 10～12ヵ月 44. ホルモン・尿・腫瘍マーカーの 45. 中間試験 46. 脳性麻痺の原因と病理 47. 脳性麻痺の分類 48. 痙直型脳性麻痺 四肢麻痺(1) 49. 四肢麻痺(2) 50. 両麻痺(1) 51. 両麻痺(2) 52. 片麻痺(1) 53. 片麻痺(2) 54. アテトーゼ型脳性麻痺(1) 55. アテトーゼ型脳性麻痺(2) 56. 3科目実力試験① 57. 3科目実力試験② 58. 3科目実力試験③ 59. 国試対策① 60. 国試対策②		
教科書	『写真で見る 乳児の運動発達 生後10日から12ヶ月まで』 【著】Lois Bly (協同医書出版) 『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』 【著】田原弘幸・大城昌平 (南江堂)		
参考書	・前期に学習した正常発達と照らし合わせながら、発達障害について理解を深め、障がいのイメージを具現化していこう。自分で模倣をすることを勧めます。 ・必要に応じて授業内容を変更する場合があります。 ・予習は各講に必要な解剖学、運動学を見直すこと。各講で国家試験問題を配布します。授業の復習として家庭学習を行って下さい。 ・授業は休まずに出席する。(遅刻は20分まで、前から入室し、黒板に氏名と時間を書くこと) ・授業の進行状況によっては追加授業を行うこともあります。出席率に換算されますので、注意してください。		
評価方法	出席状況・課題への取り組み・期末試験によって総合的に評価する。		
備考			